

四季の歌

俳句・短歌教室の詠歌紹介

春霞山里の麦育てつつ草木の露のぬくぬくと見ゆ
車より走り来る曾孫をだきとむる力まだあり体調もよし
この服を短歌大会に着てゆかむ夢はひろがる老いのひととき
幼な子の忘れし風船しまいつつ楽しき時の思い出さるる
花柄のロールペーパー求めて来て手洗のすみ春めきにけり
春の来て暦に記入すスケジュール「病院予約」と「分別ゴミの日」
長椅子にからだ横たえ点眼すまなこを閉じて無想のひととき
梅林の枝をすかして空みあぐる枝それぞれに稚き実の育つ

越智 早苗
福田 キヨ子
白石 信子
桑野 昭子
三村 和子
村上 美幸
白石 清和
福田 昌

赤池隣保館句会

池田一步選

ふらここの声の弾んで日曜日
猛々し猫の求愛背間に
夫牟寿よくぞこ、まで黄楊の花
鳥雲に湖白々と波ばかり
妣逝きて早半世紀佛の座
草原に足なげ出して春日傘
春の夜や古きテレビの物語
黄昏る程に浮き立つ雪柳
妹を頼りたよられ桃の花
初花や枝間に透けて空の紺

芳野もと子
安田 健一
石井 恵子
小場 妙子
熊谷カツミ
千手 弘子
大久保幸子
水上 翠人
米原ふさ枝
池田 駒女

福智町金田公民館俳句教室

岩井鬼童選

花束に思ひ出も詰め卒業す
窓多き図書館の黙日や永し
初めての赤い豆靴野に遊ぶ
曲水の平安絵巻和歌に酔ふ
囀りに耳あそばせて野の仏
菜の花やつかまり立ちの窓辺の児
白魚や出番の消えし竿秤
茶を熱く五体いたはる春炬燵
犬ふぐりきれいな空の色まねて

西田 真美
建部三由紀
松岡 蒿枝
岩井 童子
小川 雪
新 芳枝
加藤きみ子
小野 美幸
小西田 咲笑

方城句会

池田一步選

開館を祝す式典春日燦
春光の中へと録をまぎ移す
梅林訛りに触れて郷懐古
汝が舞へる花の宴を目のあたり
土境にへばりつきたる金鳳花
閑門橋アーチ輝く春の月
鳥雲に妣へ手向けの修証義
鎌倉の駆け込み寺の初桜
往き二輪帰り五輪と桃の花


渡邊 一枝
尾崎 和子
木村 誠一
倉石 小夜
白石 凡子
杉 フジエ
長尾 冨子
藤井耿之介
山本恵美子

福智の風

▶ 人事異動の大きな目的の一つは人材育成。トヨタでも「人間がモノをつくるのだから人をつくらねば仕事も始まらない」と人材育成の重要性が継承されているそうです。役場にも20の多様な部署がありますが、そこでスキルアップできるかどうかは自分次第。新年度、さらに自分を成長させ、福智のまちづくりに貢献できるよう頑張ります。(日吉)

▶ はじめまして、4月より広報担当となりました田代です。初めて触る本格的なカメラなどすべてが新鮮で勉強の毎日ですが、同時に楽しさも感じる事ができています。地域の魅力や情報を余すことなく伝え、町民だけでなく多くの人から愛される広報紙を作りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。(田代)

写真が語る 写真館
なみの写真館



赤坂八幡社落成
撮影日●昭和3年10月17日

仁和3(887)年からの歴史を持つ赤坂八幡社。かつてこの地に多数の弓矢の名手がいたことから「弓矢八幡」とも呼ばれました。この「射方」が「伊方」の語源とも言われています。

昔の写真を探しています！
圓本庁2階広報・広聴係
☎22-7766



1 満開を迎えた虎尾桜。2 開花が心配されたつぼみの頃。3 6分咲きの虎尾桜。4 開花した時に最も濃い緋色をみせる。5 今シーズンに向け、手すりや滑り止めが付けられた分岐点の板橋。6 花見客が絶えることのない週末の満開時。7 虎の尾のような枝から可憐な花を咲き誇った。

Pickup Topics

鮮烈な緋色の存在感

度重なる台風などで以前より枝数が少ない「虎尾桜」。しかしその圧倒的な存在感は健在でした。週末は駐車できないほどの花見客が訪れ、数千人が満開の姿を見上げました。

この春も福智山の中腹で「虎尾桜」が緋色の花を咲き誇りました。全国的に桜の開花が遅れたこともあり「かつてのように隔年でしか咲かなくなつたのでは」と心配されたエドヒガンの巨桜「虎尾桜」ですが、平地のソメイヨシノと同時期の4月7日に満開を迎えました。

桜。鮮やかな花はわずかな時間しか愛でることができませんが、その姿はわたしたちの故郷にとって何にも代え難い貴重な存在です。福智町の象徴として、心のよりどころとして立ち続ける孤高の一本桜が、町とわたしたちの心に、かけがえない彩りを添えています。



↑鮮やかさに圧倒される反面、花が付かず枯れた枝も目立ってきた推定樹齢6百年超の「虎尾桜」。幹の枯死部分も多く、支柱に支えられた状態ですが、今年も満開の姿で花見客を魅了しました。